

## J Aが中心となった米粉専用品種の試験栽培（J A埼玉中央）

- 1 市町村 東松山市・比企郡小川町
- 2 取組主体 J A埼玉中央・全農パールライス(株)・J A全農
- 3 取組開始年 令和4年
- 4 取組内容  
組合員との話し合い、関係機関（県農林振興センター、全農）との打ち合わせを経て、米粉専用品種の試験栽培を実施

### (1) 導入作物（導入面積・選定した理由）

作物：水稻（米粉用専用品種「笑みたわわ」試験栽培）

導入面積：215a（令和5年産）

選定した理由：主食用米から新規需要米への転換に際して専用品種の導入が推進されている。

米粉用専用品種について、国で推奨する品種の本県における適正は確立されていない状況にある。

このため、米粉適性が高く多収品種である「えみたわわ」の試験栽培を行い、当地域への本格導入を目指す。

### (2) 販売先

J A全農を通じて実需者とのマッチングを行っていく

### (3) 笑みたわわの品種特性（埼玉県における栽培の面から）

- ア 中晩生（彩のかがやきよりもやや早い）
- イ 草型は穂重型（歩数少な目で1穂もみ数が130粒程度と多く粒も大きい）
- ウ 草姿はやや長稈で穂が長い
- エ 耐倒伏性と穂発芽性はともにやや強
- オ 収量は多収で各地の事例では650～800kg平均11俵程度
- カ 玄米外観は心白、腹白の発生が多く外観品質は不良
- キ 米粉適性はアミロース含量が20～24%でパン用に適性がある。
- ク 埼玉県での栽培で注意すべき特性
  - ①縞葉枯病に罹病する（抵抗性がない）、葉いもち、白葉枯病、紋枯病に弱い
  - ②外国稲の血をひくため、特定の除草剤成分（ベンゾビスクロン、テフリルトリオン、メソトリオン）により白化や枯死などの薬害が発生する

#### (4) 実施地区と耕種概要

地区名	移植日	栽植密度	施肥量(N.P.K)	備考
東松山市野本	6月18日	44株(25cm)	7.0:7.0:7.0	化成 14:14:14
東松山市大岡	6月2日	44株(25cm)	7.5:9.0:8.0	コンスーパー(速+50+90)
小川町下横田	6月4日	52株(21cm)	4.2:4.2:4.2	化成 14:14:14

#### (5) 生育状況

東松山の2ほ場は、穂重型品種の笑みたわわとしては疎植になっているが、茎数は確保されている。下野本はやや過剰気味である。この2ほ場は今後穂数にどうつながるか要観察。小川町は施肥量が少ないためか草丈低く、茎数やや少なめ。葉色は3ほ場ともおおむね良好に経過した。

#### (6) 出荷実績

地区名	合計	ふるい上	ふるい下	単収	参考
東松山市野本	6,890kg	6,550kg	340kg	545.8kg	コシ 7.5俵
東松山市大岡	1,659kg	1,577kg	82kg	630.8kg	一般 7.5俵
小川町下横田	4,449kg	4,409kg	40kg	629.9kg	コシ 8~9俵 かがやき 9~10俵
合計	12,998kg	12,536kg	462kg	583.1kg	

#### (6) 現地検討会

実需者も交えた現地検討会を実施(8月10日)

#### (7) 今後の計画

令和6年産についても試験を継続する予定

## 令和6年産の取組み

○令和5年産で取組んだ生産者との意見交換の中で、共同乾燥施設の利用要望があったため、施設利用での対応とした。

搬入施設：東松山RC

○実需者より取組み希望面積（数量）の増加が要望され、東松山地区で水田活用米穀に取組む大規模生産者を中心に説明し、面積を拡大した。

地区（生産者）	契約面積	ふるい上	ふるい下	合計	単収
東松山市大岡	3,383 m <sup>2</sup>	939kg	67kg	1,006kg	297.4kg
東松山市唐子	30,265 m <sup>2</sup>	12,657kg	3,175kg	15,832kg	523.1kg
東松山市高坂	62,520 m <sup>2</sup>	26,066kg	3,365kg	29,431kg	470.7kg
東松山市野本	20,583 m <sup>2</sup>	5,198kg	668kg	5,866kg	285.0kg
合計	116,751 m <sup>2</sup>	44,860kg	7,275kg	52,135kg	446.5kg

東松山市の基準単収：485kg

○地域により出穂期にイネカメムシの被害を受け、大きく減収となった。

一般主食うるち（彩のかがやき）で取組む水田活用米穀に比べて、収量は確保できた。

## 次年度の取組み

○実需者側から生産拡大の意向があったため、東松山地区以外にも拡大し取組む方針です。

○令和7年1月14日に会議を開催し、主食用米の価格高騰から水田活用米穀の取組みは減少すると思われるが、生産調整の必要性を説明しながら、令和6年産で米粉用米への取組みを行った生産者を中心に、令和7年産は「笑みたわわ」での米粉用米の取組みを確認・確保することとし、予定面積と種子粃必要量の確認を行っています。（取りまとめ：令和7年1月末）